

部長会議の概要

- 1 開催日時：平成18年12月26日（火）8：45～9：50
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、出納長、各部長等
- 4 欠席者：生活部長（生活部副部長代理出席）
- 5 議事概要：以下のとおり
（ 議題提出部説明・回答、 意見・質問）

（重要情報共有化）

議題1：平成19年度地方財政対策等について（総務部）

資料1に基づき説明

国の予算の14.5兆円と地方財政対策の15.2兆円の差は何か。

14.5兆円は国の一般会計予算のいわゆる入口ベース、15.2兆円は自治体に交付される出口ベースである。

交付税の減の理由は

地方歳出の圧縮によるものであるが、財源措置の面では地方財源不足額の縮小により、従来措置されていた国の特例加算がなくなった。

交付税の減は、市町村合併しなかったところへも影響があるのか。

交付税は交付団体への影響が大きい。また、県より市町村へ手厚くなる傾向にある。

給与関係の定員削減で+5000人の前倒しをしているが、19年度はどう対応するのか。

5.7%減を進めていく必要があるが、来年度に限って言えば、各都道府県+5000人の対応は困難ではないかと考えている。

この対応は難しい。

昔は（国全体の）概ね1%が本県のシェアであったが、1%を切ってきた。

地方財政対策の収支で水準超経費が1.4兆円から2.3兆円と0.9兆円増加している。一般財源は0.5兆円増加しているものの、この0.9兆円を除くと交付団体にとっては、実質0.4兆円減している。

県の予算フレームは大きく変えるのか。

今回の地財対策の人件費の抑制によって、夏の時点よりしわ寄せがくる。一般財源についても、夏は横ばいと考えていたものが、地財ベースで0.4兆円減。プラス要因はない状況。後は税収がどれくらい伸びるのか。今後、歳出を厳し目に調整していきたい。

議題2：「職員満足度アンケート2006」について（総務部）

資料2に基づき説明 質疑なし

議題3：三重県景観計画（案）について（県土整備部）

資料3に基づき説明 質疑なし

議題4：伊勢志摩で開催された主なイベントの結果概要及び経済波及効果の推計について

資料4に基づき説明 質疑なし

以上